

健康づくり・スポーツ推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和5年8月9日（水）～8月10日（木）

2 視察先及び視察事項

（1）沖縄県沖縄市

沖縄アリーナにおけるスポーツ振興の取組について

（2）沖縄県

第2期沖縄県スポーツ推進計画について

3 視察委員

委員 大山 しょうじ

同 花上 喜代志

- 1 視察月日 令和5年8月9日（水）～8月10日（木）

- 2 視察先及び視察事項
 - （1）沖縄県沖縄市
沖縄アリーナにおけるスポーツ振興の取組について
 - （2）沖縄県
第2期沖縄県スポーツ推進計画について

- 3 視察概要及び視察資料 別添のとおり

視察概要

1 視察先

沖縄県沖縄市

2 視察月日

8月9日（水）

3 対応者（役職名）

企画部 プロジェクト推進室副主幹 （受け入れ挨拶・説明）

4 視察内容

（1）沖縄アリーナにおけるスポーツ振興の取組について

ア 施設・取組の概要

（ア）施設の概要

- ・沖縄アリーナ（以下「本アリーナ」という。）は以前は闘牛場であった場所に建設された。令和3年2月26日に竣工し、総事業費は162億円である。
- ・1万人規模を収容する多目的アリーナの県内への整備は2014年の沖縄市長選挙の際の桑江現市長の公約であった。
- ・沖縄県中部にある沖縄市は「素通り観光」が課題であるが、「滞在型観光」への転換に向けて本アリーナの活用が期待されている。
- ・本アリーナプロバスケットボールチーム「琉球ゴールデンキングス」の本拠地である。
- ・2023年8月25日～9月10日まで、マニラ、ジャカルタ、沖縄で行われる「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」の沖縄ラウンドの会場となった。

（イ）観せる施設

- ・スポーツを「観る」お客様に楽しんでもいただける「観せる施設」として運営している。日本の他のアリーナには見られないすり鉢状に配置された観客席は、座席の角度も工夫しているため、1万人規模収容するアリーナにも関わらず5階から見てもステージやコートに近く、プレーの迫力、会場の臨場感が感じられる。
- ・アリーナの天井から510インチサイズのメガビジョンが吊り下

げられている。メガビジョンは可動式になっており、5階のパノラマラウンジ近くまで寄せられるほか、会議やパーティなどの演出にも活用できるようになっている。

(ウ) 使いやすさの追求

- ・アリーナ部分はコンクリートの土間敷きになっており、大きなトラックも直接の乗り入れが可能で、あらゆるイベントにおいて搬出入、設営がしやすくなっている。バスケットボール仕様にする際は、畳一畳分ほどの板を270枚敷き、バスケットゴールを設置する必要がある、会場の設営に5～6時間を要する。プロバスケットボールの試合に向けた会場の設営はミリ単位のずれも許されないため、職人技で仕上げる。
- ・1階の客席は可動式になっており、最前列から7列くらいが出てきたり、引っ込んだりするようになっている。1階の客席数はおおよそ2500席である。

(エ) 県内最大の収容人数の施設

これまで沖縄県内に存在する室内施設（アリーナ、ホール等）は、収容人数の最大数が5000人規模であり、スポーツやコンサート等の誘致面で機会損失があった。本アリーナは、例えば格闘技仕様でアリーナの真ん中にリングを置き、その周辺を座席で囲むように設営する場合、最大1万人収容可能である。なお、バスケットボール仕様の場合、最大8500人収容可能である。

ウ 質疑概要

- Q 新型コロナウイルス感染症の影響もあったと思うが、本アリーナの稼働率はどれくらいか。
- A 令和3年度は27%で令和4年度は45%である。
- Q 今までどのようなアーティストが本アリーナでコンサートを行ったか。
- A ヨーヨー・マ、ケツメイシ、DREAMS COME TRUE、B'z、小田和正さんなどがコンサートを行った。
- Q バスケットボール、コンサート以外の利用はあるのか。
- A モーターショーなども行った。これまでのモーターショーは、車を見て裏の会議室等で商談というイメージが一般的だったがと思うが、本アリーナだと、アリーナに並べた車を見渡せるような別室（スイートルーム）で商談を行ったりすることで、その環境、雰囲気少し気分を少し高め、商談の成功にも寄与することがあ

ると考える。そのため、バスケットボール、コンサート以外の様々な用途における利用を模索している。

Q モーターショーは、例えばトヨタ自動車株式会社などの国内メーカーが一社単独で行うのか。

A 国内メーカー一社単独ではなく、他の国内メーカーや海外メーカーを含めて行った。

Q 施設内にカメラは何台くらいあるか。

A 60台である。施設内を見渡すと白い帯のようなものがあるが、この「リボンビジョン」にイベントスポンサーのロゴやその他様々な静止画や動画を流すことができる。

Q 年間単位の広告を検討したりしたか。

A 現状はイベントごとにやっているが今後はネーミングライツも考えている。これまでもネーミングライツの営業にまわったりもしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で企業から協力いただけない状況が数年続いた。

Q スイートルームの値段はいくらくらいか。

A イベントターによって異なり、琉球ゴールデンキングスの場合、1部屋10～15万円くらいである。企業で年間契約し、福利厚生等で使っていただいている例もある。

Q スイートルームのルームサービスはどこが運営しているのか。

A イベントターが自ら業者を連れてくるパターンと、指定管理者が持っている業者にお願いをするパターンなどがある。

Q スポーツチームのスポンサー探しは大変だと思うが、琉球ゴールデンキングスのメインスポンサーはどこか。

A チームの設立当初から全保連株式会社がメインスポンサーである。

Q 市の施設としての地域貢献の取組にはどのようなものがあるか。

A 「沖縄市はたちの集い」を開催する際に減免利用で使っていた。

(2) 委員所見

本アリーナは大規模スポーツ施設整備計画として、かねてより県民の期待が大きく、特にバスケットボールの盛んな沖縄では早期整備の要望が高まっていた。施設規模が1万人収容という計画と知り驚かされたが、施設を視察し、職員の方からの説明を聞き、多目的施設として様々なアイデアを取り入れることにより、収支のバランスを図り、

健全経営に配慮しているとのことであった。

新型コロナウイルス感染症の影響があった令和3年度の稼働率は27%、令和4年度は45%とおそらく全国の他の類似施設と比べても健闘している方だと思う。そして、今年度（令和5年度）は、FIBAバスケットボールワールドカップ2023が開催され、大いに盛り上がり、稼働率も上昇していることと思う。来年度は更ににぎわうであろう。

アフターコロナで、今後はバスケットボールに限らず、コンサートや他のイベントなどの利用も増えると見込まれ、沖縄県の中心的な多目的施設としてにぎわい、沖縄県の経済にも大いに寄与することであろう。

本アリーナは、毎試合、約8500人の満員の観客を集める「琉球ゴールデンキングス」の本拠地であり、日本全国のバスケットボールプレイヤーにとって憧れの「聖地」のようになっていくことを期待する。きっとそのようになっていくであろう。

本アリーナは全国的にも大変注目された大規模スポーツ施設であり、先進的スポーツ施設としての 今後の成功を大いに期待している。



(沖縄アリーナにて)

視察概要

1 視察先
沖縄県

2 視察月日
8月10日（木）

3 対応者
文化観光スポーツ部スポーツ振興課班長（受け入れ挨拶）
文化観光スポーツ部スポーツ振興課主査（説明）

4 視察内容

（1）第2期沖縄県スポーツ推進計画について

ア 計画の策定の基本的な考え方

（ア）計画の位置付け

本計画は、沖縄振興計画としての性格を併せ持った「新たな振興計画」に基づくスポーツ分野における計画であり、スポーツ基本法第10条第1項に定める地方スポーツ推進計画として位置付けている。

（イ）計画の期間

令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間

（ウ）SDGsを踏まえた計画の推進

本計画に基づく各施策は、SDGsの目標の達成に資するものであることから、施策ごとに深く関連するSDGsの目標を示している。

（エ）計画におけるスポーツの捉え方

スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く捉えられており、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であるとされている。

今後スポーツをより成熟させていくうえで、近年ではスポーツの価値や力が認められ、スポーツが語られ、活用される場面や機会はますます増え、スポーツという言葉に含まれる意味はより多義的になっていくことが予想される。

したがって、沖縄県においても、「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ、心身の健康等のために自発的に行われる身体活動を広くスポーツと捉え、計画を推進する。

(オ) スポーツの価値

沖縄県においては「県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備」（インナー施策）と「スポーツ関連産業の振興と地域活性化」（アウトター施策）という2つの施策をバランスよく進めていく。両施策はそれぞれが独立した目標として達成されるものではなく、両施策を跨ぐ取組や相互に使用・結療する取組等により、密接に相関しながら、スポーツの価値がより広い範囲に波及していくことを目指す。

「波及」については、まず、スポーツには、感動、達成感、喜び、面白さ、楽しさ、充実感、興奮など直接的な力がある。

次に、スポーツが持つ力の個人レベルへの波及として、ストレス発散、リラックス、気分転換、健康の保持増進、体力の向上などの「心身の健全な発達」がある。

さらに、スポーツが持つ力の社会レベルへの波及として、地域コミュニティの活性化、相互理解の促進などの「共生社会の実現」交流、人口の拡大、地域経済の活性化などの「活力のある社会の実現」、まちの賑わい創出、医療費の抑制など、「健康長寿社会の実現」がある。

イ 沖縄県のスポーツを取り巻く環境の変化

(ア) 人口構成の変化

これまでは人口が増加基調だったが、令和12（2030）年をピークに減少に転じる見込みで、高齢化率は徐々に高まり令和27（2045）年には31.4%になる想定である。

(イ) 家族構成の変化

1世帯当たりの人員は減少傾向で令和2（2020）年には2.39人になった。単独世帯は令和22（2040）年までに1.7倍増加する想定である。

(ウ) 健康状態の変化

令和元（2019）年には健康寿命は男性が26位から40位へ、女性が10位から25位へ順位を下げた。沖縄県の医療費は高齢化の進展に伴い今後も増加する想定である。

(エ) 社会状況の変化

2023年には本県を会場とした FIBA バスケットボールワールドカップ2023が開催される予定であり、スポーツに対する機運が高まっている。

(オ) その他環境の変化

スポーツの成長産業化に大きな可能性があり、県内のスポーツ市場規模は平成27（2015）年時点で976億円と平成23（2011）年比の53.2%増となっている。

ウ 沖縄県が目指す姿

基本理念として、「世界にはばたき躍動する『スポーツアイランド沖縄』の形成』を掲げる。

「スポーツアイランド沖縄」とは沖縄の特性を生かした沖縄県におけるスポーツ振興のコンセプトであり、以下の①～③が実現できているとともに、④の状態になっていることを言う。

- ① 県民が健康・長寿であるため生涯を通してスポーツを楽しむこと
- ② 国内外で活躍するトップアスリートを輩出すること
- ③ 我が国の南端のスポーツ交流拠点として年間を通したスポーツコンベンションが開催されること
- ④ 沖縄の地理的特徴や恵まれた自然・温暖な気候、特色ある地域・文化・産業とスポーツを関連づけ、スポーツの持つソフトパワーを活用することにより、地域・経済の活性化につながる取り組みが全県的に行われていること

エ 施策と具体的な取り組み

(ア) 県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備（インナー施策）

ア 県民一人ひとりが参加する障害スポーツの推進

- ・ 総合型地域スポーツクラブへの支援による身近なスポーツ環境の整備
- ・ スポーツ少年団の普及や育成
- ・ 高齢者が体力や健康状態に応じたスポーツ・レクリエーションに親しむことができる環境づくり
- ・ 障害者のスポーツ参加に向けて、スポーツ・レクリエーション活動に参加できる環境づくり

イ 県民の競技力向上・スポーツ活動の推進

- ・ 各競技団体が取り組む強化練習、対外試合、強化合宿の支援
- ・ 有望なジュニアアスリートの発掘、育成

- ・データに基づいたトレーニングの導入
- ウ スポーツ・レクリエーション施設及び関連基盤の整備・充実
 - ・安全確保対策と利用者の満足度向上
 - ・バリアフリー・多言語化
 - ・スポーツ関連施設におけるICTの活用導入
- (イ) スポーツ関連産業の振興と地域の活性化（アウター施策）
 - ア スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成
 - ・市町村、スポーツコミッション等の関係団体と連携したスポーツイベント、キャンプ、合宿等のスポーツコンベンションの誘致・開催
 - ・FIBAバスケットボールワールドカップ2023開催に向けた受入体制構築、機運醸成の取組
 - ・沖縄の自然環境や地理的優位性を生かしたスポーツの推進
 - ・インナー施設とアウター施設の双方に対応した施設・設備の充実
 - イ スポーツを核とした新たな産業の創出とグローバル展開
 - ・スポーツに関連した高付加価値製品・サービス開発
 - ・スポーツビジネスモデル創出に向けた支援
 - ・スポーツマネジメント人材の育成
 - ・スポーツ・ヘルスケアサイエンス拠点の構築
 - ・ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関の指定
 - ウ スポーツ資源を活用したまちづくり
 - ・J1規格スタジアムの整備による地域の賑わいの創出
 - ・県内プロスポーツチーム等の支援、トップアスリートを指導者としたスポーツイベント、スポーツ教室の開催
 - ・スポーツを通じた多様な社会課題の解決や国際交流、国際貢献に向けた取組
- オ 計画の着実な推進と進行管理

計画の着実な推進に向けて、①国や市町村との連携、②教育・福祉・保健・観光等との横断的な取り組みの推進、③沖縄県スポーツ協会や沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県障がい者スポーツ協会、沖縄県レクリエーション協会、各競技団体、沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会等、関係団体と連携の強化を図る。

また、計画の進行管理のため、P D C Aサイクルを繰り返すことにより、取組を継続的に改善し、沖縄県スポーツ推進審議会において達成状況を客観的に把握・評価するために設けた成果指標について、実績値・目標値を対比し、進捗状況を確認、評価していく。

カ 質疑概要

Q FIBA バスケットボールワールドカップ2023開催に当たって、沖縄アリーナへの交通アクセスの課題等はどのようなものか。

A 横浜スタジアムから徒歩圏内に位置するJR、地下鉄の関内駅のような環境が私たちにはなく、横浜市を羨ましいと思う。FIBA バスケットボールワールドカップ2023開催中は、沖縄アリーナには自家用車が入れずシャトルバスで全て対応するという方針になったことから、沖縄都市モノレール株式会社にシャトルバスの発着場やゆいレールの最終電車の時間を調整していただくなど、1つ1つ課題を乗り越えていこうとしている。

Q 沖縄県でのeスポーツについての動き、取組はあるか。

A eスポーツは所管がスポーツ振興課ではなく、M I C E推進課である。ただ、今後は、競技力の向上みたいな話が出てくるのが予想されるため、スポーツ振興課の世界になってくると思う。

また、eスポーツの大会のようなものをきっかけに県外から多くのお客さんを呼び込もうみたいなイベントがあった際には、イベントへの支援で補助を出したりしていることがある。

Q 沖縄アリーナの取組がサイクルツーリズムにもつながると思うが、沖縄県の景色を見ながら走るズイフトのようなものはあるか。

A 沖縄県で一番大きな自転車専門店である沖縄輪業にズイフトを置いて、ツール・ド・おきなわの体験コースをやってもらったりした。我々としてはできるだけ県外や国外の人たちに沖縄にこういう景色、こういうコースがあるのだということを知ってもらいたいという思いでやっていた。

Q 沖縄県のサイクルツーリズムの取組みにはどのようなものがあるか。

A サイクリストの聖地となっているしまなみ海道（尾道市～今治市）は「ナショナルサイクルルート」という国からのお墨付きをもらっているが、私たちも「ナショナルサイクルルート」の承認を国からもらうことも目標にしている。沖縄の景観の素晴らしさはあるが、自転車走行空間（ブルーライン）やサイクルステーション

ョンなど国の基準に沿った整備も必要である。沖縄県の魅力を知ってもらうことはもちろんのこと、サイクルツーリズムの経済効果もかなり高いとの調査もありテコ入れをしていきたい。

Q 国が認めた「ナショナルサイクルルート」は何か所くらいあるか。

A しまなみ海道をはじめ全国で6か所である。

Q 沖縄本島一周サイクリングで危険なところ、危険なことはないか。

A 危険なところはあまりない。北部に行けば行くほど信号が全くなくなってくるのでとても走りやすくなる。他方、県外から来るサイクリストの多くは、本土で使っているアスファルトと少し違うみたいで、自転車とかバイクもそうだが雨が降ると滑りやすいと話している。事故につながってしまうと大変であることから、滑りやすいという声があるのであれば、何かしらの対策を考えなければいけない。

(2) 委員所見

沖縄県のスポーツ政策の取り組みは他都市と比べても極めて熱心であり、世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成を目指す方針は県民の期待を集めている。

スポーツが盛んな県であるとは感じていたが、説明を伺い、行政（沖縄県）として、地域スポーツなど「県民等が主体的に参画するスポーツ環境の整備」を推進する「インナー施策」と、スポーツツーリズムなど「スポーツ関連産業の振興と地域の活性化」を進める「アウター施策」のように、体系的に施策を1つ1つ取り組んでいることがよく分かった。

プロ野球キャンプ訪問観光促進事業は、沖縄県が観光地としては閑散期であるはずの2月であるが、プロ野球の12球団のうち9球団が沖縄を訪れ、長期滞在する。加えて、キャンプを見学に来るファンの県外からの往来により、交通、宿泊、飲食等、関連する産業も活性化される。そのような意味で2月でも温暖な沖縄県の気候を最大限に生かした強みである。プロサッカーチームも来ているようで、今後はラグビーチーム等の新たな誘致も見据えているようだ。

サイクリストの消費額は高いようで、沖縄県の魅力を知ってもらうことに加え、経済消費の観点からも、今後は「サイクルツーリズム」のテコ入れをしていくとのことである。私もそうだが、素晴らしい景

観の沖縄県内を自ら走ってみたい、自転車で走ってみたいと憧れる人は多いと思う。今後に期待したい。

併せて、障害者スポーツやサイクルツーリズム、eスポーツなど県民の健康、長寿を目指した新たな取組により、健康寿命を延ばす試みが成果を上げていることに今後も大いに期待したい。



(会議室にて説明聴取)